令和４年度　M探実施報告

１　研究開発名

「地球規模の視野で物を考えつつ、地域視点で行動するグローカル（Glocal）人材の育成」

２　概要

本校の探究活動は、大きく分けて、グローバル・リーダーに求められる諸資質の涵養を目指し、１年生から３年生の３年間にわたり、総合的な探究の時間を活用して探究的学習に取り組むM探と海外フィールドワークの二本柱である。今年度はM探３年目であり、新しい探究スタイルの確立に力を入れた。コロナ禍の中、探究活動は模索が続いたが、多くの生徒が地域に出て活動を行うなど、本校らしい探究のスタイルを確立できた。

また、三菱みらい育成財団の支援を受け、他の高等学校と連携・協働して科学研究に取り組みながら、協働的に知を形作っていく探究活動や、地域や世界の課題に対する自らの問題意識やその解決法の模索を、県内在住者と対面で英語を通じてディスカッションをするなど、今までのM探の弱い部分を補う活動を行った。特にも、生徒のリクエストにより講師を選定するM探　Plus　Teacher は生徒の心を揺さぶる事業として、大きな成果を収めることができた。

今年度、海外派遣事業「白堊の翼」を再開した。今後は研修旅行での台湾フィールドワーク（今年度、次年度は中止）も継続し、世界への窓を開いていきたい。

３　実績の説明

□各学年の課題研究

	１学年≪M探Ⅰ≫	２学年≪M探Ⅱ≫	３学年≪M探Ⅲ≫
４月	19 日　ガイダンス 26 日　探究の扉（１） 自分の興味関心を知る	20 日　全体ガイダンス① 27 日　ジャンル別集会(グループ決め・課題設定①)	14 日　全体ガイダンス 21 日　論文検索
５月	17 日　探究の扉（２） 社会に目を向ける 菊池広人氏ワークショップ① 31 日　共有会（１）	10 日　講演会　神崎史彦氏「探究課題の設定方法について」 25 日　課題設定②・アクションプラン作成①	12 日　共有会準備 10 日　神崎史彦氏講演会 19 日　共有会 26 日　再考察
６月	７日　探究の扉（３） 21 日　探究活動の方法（１） 問いと仮説の立て方 菊池広人氏ワークショップ② 28 日　探究活動の方法（２） FW の方法・地域を知る ベアレン嶌田氏講演会	1 日　アクションプラン作成② 8 日　ジャンル内共有会① 22 日　探究活動①(個人・グループ毎) 29 日　探究活動②	２日　共有会 23 日　『未来レポート』作成 30 日　学部別集団面接
７月	５日　探究活動の方法（３） 12 日　探究活動計画の策定 19 日　共有会（２）	6 日　講演会　馬淵　邦美氏 「AI と経営について」 20 日　共有会②	７日　学部別集団面接 14 日　小論演習①『トレンドワード』 21 日　ディスカッション

夏季休業期間　フィールドワーク

8月	23 日　中間報告書の作成	24 日　中間報告書作成 27～28 日　文化祭で報告書展示	25 日　小論演習②『賛否』
9月	６日　共有会（３） 20 日　キャリア講演会 弘中綾香氏「アンクールな私」 27 日　探究計画の構想	7 日　課題の再設定・アクションプラン見直し 14 日　全体ガイダンス② 「後期の活動方針」 28 日　外務省「高校講座」 大草　真紀氏	1 日　小論演習③『主張』
10月	４日　探究計画書の作成 11 日　探究計画書の完成	20 日　講演会　村尾隆介氏 「効果的なプレゼン技法」 26 日　探究活動③	
11月	８日　ミニ講演会 社会人講師８名による講演 22 日　探究活動のブラッシュアップ 29 日　探究活動の準備	9 日　発表準備 16 日　ジャンル別共有会	
12月	13 日　探究活動の方法（４） 菊池広人氏ワークショップ③	7 日　学年共有会 14 日　全体ガイダンス③ 「論文作成について」	
1月	17 日　クラス発表会準備 22 日　マイプロアワード岩手大会 24 日　クラス発表会	18 日　探究活動④	
2月	7 日　M探学年発表会 論文作成 24 日　M探全体発表会	1 日　発表練習 8 日　M探英語発表会 24 日　M探全体発表会	
3月		22 日　クラス内共有会	

□成果普及のための取り組み

(1)研究発表会（各学年）

(2)高校生フォーラムへの参加

(3)マイプロジェクトアワードでの発表等

目標の進捗状況、成果、評価

□生徒の意識調査に基づく事業評価

「目標設定シート」における調査項目に関連する事項について、全校生徒を対象とした意識調査を１月に実施した。調査項目に関する経年変化について述べる。

質問項目	回答	Ｒ１ SGH 最終年	Ｒ２ M探初年度	Ｒ３ M探２年目	Ｒ４ M探３年目
１　自主的に社会貢献活動（ボランティア活動など）やＭ探を通しての地域活動に取り組みましたか。	Yes	６５％	４０％	５０％	８１％
	No	３４％	６０％	５０％	１９％
２　自主的に留学や海外研修を行ったか	Yes	７％	０％	０％	１％
	No	９３％	１００％	１００％	９９％
３　将来留学したり、国際的な仕事に就きたいか	Yes	５３％	４７％	４５％	４４％
	No	４７％	５３％	５５％	５６％
４　探究的な学習活動は好きか	Yes	７６％	６５％	５８％	６０％
	No	２４％	３５％	４２％	４０％
５　課題研究を通して自分の進路はより明確になったか	Yes	３５％	３７％	３３％	４１％
	No	６５％	６３％	６７％	５９％
６　課題研究を通して国外の機関や専門家と連携したか	Yes	５％	３％	４％	１％
	No	９５％	９７％	９６％	９９％
７　グローバルな社会課題・ビジネス課題に関する大会に参加したか	Yes	５％	５％	５％	５％
	No	９５％	９５％	９５％	９５％
８　高校卒業後、海外の大学へ留学・進学するか（予定を含む）	Yes	１０％	５％	１４％	８％
	No	９０％	９５％	８６％	９２％

(1)自主的に社会貢献や自己研鑽に取り組む生徒数

昨年、一昨年とコロナ禍で課題解決のためのアクションを外部で行うことが難しかったが、今年度は実際に地域に出て行動できた生徒が８割を越え、実行力という点で高く評価できる。

(2)自主的に留学または海外研修に行く生徒数

コロナ禍の中、渡航が難しい状況ではあるが、「白堊の翼」派遣事業の再開ができた。

(3)将来留学をしたり、仕事で国際的に活躍したいと考える生徒の割合

例年同様、約半数の生徒は、国際的に活躍したいと考えている。

(4)課題解決のための探究的な学習を好む生徒の割合

Ｍ探が始まってから、探究活動を好む生徒の割合は６０％前後で推移している。コロナ禍での影響もあるが、SGH 指定の頃よりは割合が低下していることから、分析及び対策が必要である。

(5)課題研究を通して自分の進路はより明確になったか

Ｍ探の目的の１つ柱である「進路の明確化」ではある。今年度はよりその点を意識したプログラムを用意したせいか、大きくその割合を伸ばした。今後とも課題意識をもってプログラムを作っていき

たい。

(7)課題研究に関する国外機関との連携数

生徒アンケートには表れてはいないが、２年生普通科の生徒は全員県内在住の外国人に英語でプレゼンテーションした。

(8)グローバルな社会またはビジネス課題に関する公益性の高い国内外の大会における参加者数

マイプロジェクトアワード 2022 には、1,2 年生の課題研究の成果発表の場として多くの生徒が応募した。また、高校生フォーラム、英語ディベート大会、科学の甲子園などに応募した。

(9)高校卒業後、海外の大学へ留学・進学するか（予定を含む）

留学へのニーズは常に一定数ある。

＊講演会等

１年生：菊池広人氏（元東北学院大学特任准教授）　弘中綾香氏（テレビ朝日アナウンサー）
森岡正博氏（早稲田大学教授）

２年生：神崎史彦（スタディサプリ講師）　村尾隆介氏（スターブランド株式会社）
馬淵邦美氏（PwC コンサルティング株式会社）　大草真紀氏（外務省国際協力局気候変動課）
森岡正博氏（早稲田大学教授）

３年生：神崎史彦（スタディサプリ講師）

□教職員アンケートから事業評価

【質問事項】

《生徒の変化》

（１）M探の様々な取組は、生徒の「国際的な対話力」向上に寄与したと思いますか。
（２）M探の様々な取組は、生徒の「課題解決力」向上に寄与したと思いますか。
（３）M探の様々な取組は、生徒の「情報発信力」向上に寄与したと思いますか。
（４）M探の様々な取組は、生徒の学習意欲の向上に寄与したと思いますか。
（５）M探の様々な取組は、生徒の進路決定に対して寄与したと思いますか。

《教員側》

（６）M探の様々な取組は、本校の教育活動に役立っていると思いますか。
（７）M探の様々な取組は、自分自身の授業改善につながっていますか。
（８）M探の様々な取組にかかわることは、教員としてのモチベーションの高まりにつながっていますか。

【選択肢】

４　大いにある　　３　ある程度ある　　２　それほどでもない　　１　全くない

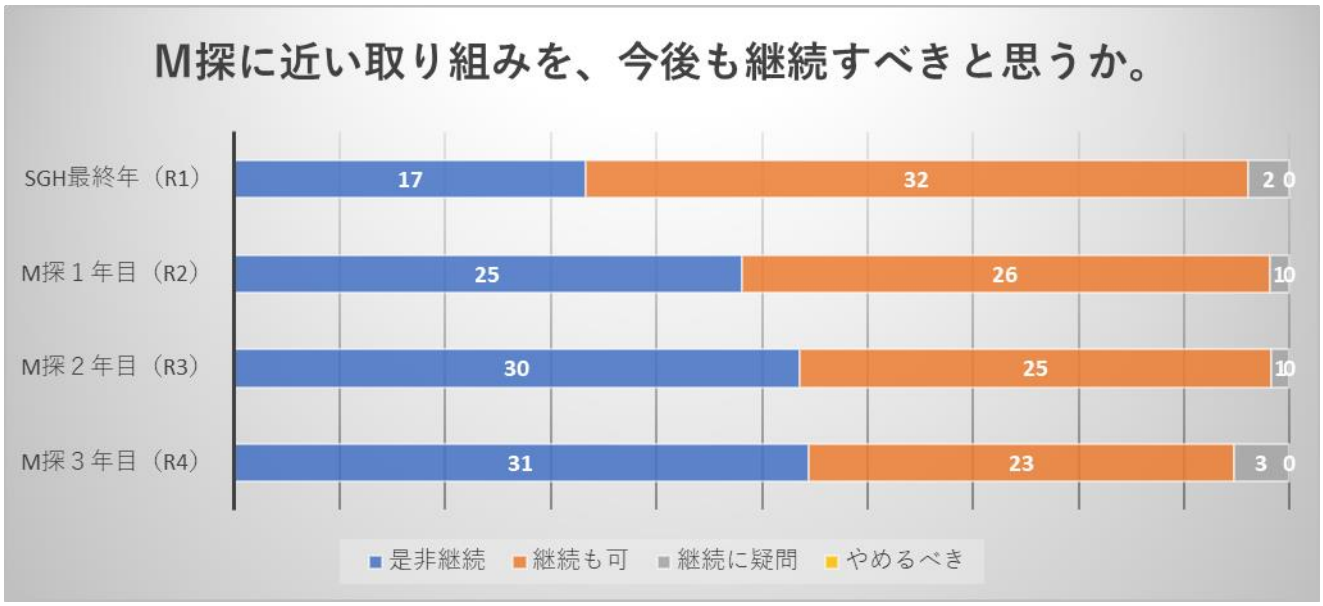
質問項目	R１SGH 最終年	R２M探 初年度	R３M探 ２年目	R４M探 ３年目
（１）M探の様々な取組は、生徒の「国際的な対話力」向上に寄与したと思いますか。	３．１	２．９	３．１	３．２
（２）M探の様々な取組は、生徒の「課題解決力」向上に寄与したと思いますか。	３．４	３．３	３．３	３．４

（３）M探の様々な取組は、生徒の「情報発信力」向上に寄与したと思いますか。	３．７	３．４	３．４	３．４
（４）M探の様々な取組は、生徒の学習意欲の向上に寄与したと思いますか。	２．９	３．０	３．１	３．０
（５）M探の様々な取組は、生徒の進路決定に対して寄与したと思いますか。	２．８	２．８	２．８	２．８
（６）M探の様々な取組は、本校の教育活動に役立っていると思いますか。	３．４	３．３	３．４	３．５
（７）M探の様々な取組は、自分自身の授業改善につながっていますか。	２．６	２．６	２．９	２．７
（８）M探の様々な取組にかかわることは、教員としてのモチベーションの高まりにつながっていますか。	２．７	２．７	２．８	２．８

M探に関する教職員アンケート（令和５年３月実施、職員 57 人回答）

(1)令和５年３月に実施した教職員アンケート（全員が回答）では、M探を通じて生徒に身に付けさせたい３つの力である「国際的な対話力」、「課題解決力」、「情報発信力」の３項目に関して、いずれの項目についてもほとんどの教員がそれぞれの力の向上に寄与していると考えていることが分かる。

(2)学習意欲の向上及び進路決定に対する寄与については、否定的な見解を持つ教員が２割程度おり、教科の学びや学びに向かう意欲につながる工夫、進路決定に対する視点がさらに求められるところである。



５　課題や問題点について

＊次年度の課題

アンケート及び自由記述から以下の点について改善が求められる。

1　学校全体として M 探の 3 年間の流れを構築すること

2　進路指導との連携。探究を通して自分の進路選択を明確にする取り組み

3　全職員が主体的に指導できる体制の構築